

中電不動産の緑化

発電所や変電所で培った「大面積緑化」や「生産設備の緑地維持管理」ノウハウを生かし、緑地に関するお困りに応えます。



■ こんなことでお困りではありませんか？

- 緑地面積が足りなくなりそうだ・・・
- 緑地管理を省力化したい・・・
- 施設周辺の樹木が大きくなりすぎてしまった・・・
- 緑地を改修したい・・・

いろいろな技術を組合わせて、最適なお提案をさせていただきます。

■ 建物の特殊緑化

- コンビニエンスストア
- 病院や大学
- 会社建物

1 屋上緑化

2 壁面緑化

■ 大規模施設 設備の緑化 維持管理

- 発電所や工場などの大規模施設

3 雑草抑制工法

4 工場緑化技術
造成 ~ 植栽 ~ 維持管理まで

■ 特殊伐採

- 機械が入れない箇所
- スペースの狭い箇所

5 ロープクライ
ミング工法

1 屋上緑化について

屋上緑化の主な効果

- 都市部のヒートアイランド現象の緩和
- 夏季の温度上昇の軽減による冷房の省エネルギー効果および冬季の保温効果

庭園型屋上緑化

- 発砲スチロールを使った軽量資材により柔軟な緑化計画を実現することが可能
- 空隙保有性により、土壌の固結防止、植物根への酸素供給など植生環境を整備
- 憩いの場としての活用や精神の安定化・ストレス解消などのリフレッシュ空間としての利用が可能



薄層屋上緑化

● コケ緑化

- 日本に自生する「スナゴケ」を用い、その強い生命力を生かした緑化工法
- 灌水、刈込み、施肥などの管理をほとんど必要とせず、究極の低ランニングコスト緑化を実現
- 緑化条例を満たすための一定比率以上の緑地面積を確保するのに有効



② 壁面緑化について

小型プランターを使った壁面緑化

- 様々な植物を植栽することにより、設置場所の条件（日陰、室内等）に対応することが可能。
- デザイン自由度が高く、設置後の植物の取り替えや配置換えが容易。



参考 使用植物例



ワイヤープランツ



フィカスブミラ



ヤブコウジ



ハツユキカズラ



シモツケ



斑入りヤブコウジ



斑入りヤブラン



斑入りツルニチニチソウ



セイヨウイワナンテン
'アキシラリス'



ヤツデ



アベリア 'ホープレイズ'



オリヅラン(外斑)

③ 雑草抑制工法について

雑草抑制工法の概要

- 播種繁殖可能な多年生の草丈の低い植物を使用
- 播種方法は「手蒔き」「種子吹付け」「客土吹付け」「植生マット」から施工地に合わせて選択可能

この工法のメリット

- 維持管理は部分的な人力除草、施肥と除草剤の散布のみ。
- 廃棄物の処理量（処理費）が減少する。
- 刃物を用いた作業が無くなり、作業災害リスクが低減する。

工法の特徴

- 草丈の低い植物が被覆することで、その他の**植物の進入を抑制する工法**です。
- **ベース植物**と、ベース植物が充分生育するまでの期間の雑草抑制効果を補う**先行植物**とを組み合わせ使用します。
- 雑草種子の飛来を防ぎ、**長期間にわたって一定の景観を維持することができる緑地を形成します。**

事例① 吹き付けタイプ 上越火力発電所



2013/8/8 施工後約1カ月目



2016/8/17 施工後約3年目



2018/5/17 施工後約5年目

事例② 植生マットタイプ 西名古屋火力発電所



2017/4/15 施工後



2017/7/14 施工後約3カ月



2019/5/13 施工後約2年

④ 工場緑化技術について

工場緑化手法の概要

- 一般に「エコロジー緑化」と呼ばれ、良好な植生基盤の造成と立地の潜在自然植生による樹種選定と、その幼苗を密植することにより、大面積の樹林を造成する手法

この工法のメリット

- 工事費の低減化と強風地・急斜面地等の悪条件地において緑化が可能
- 短期間で環境保全機能を目的とした大規模緑地を形成

施工のポイント

- 目標樹林形態の十分な検討が必要。（多様な機能・景観への対応）
- 適地適木適植（適した場所に適した樹種を適した手法を用いて植栽する）で運用していくことが重要。
- 多様な緑地機能や景観を創造するため、遷移の過程で出現する落葉樹や低木等の混植が重要であり、人為的に遷移をコントロールすることに主眼を置く必要がある。
※遷移=優占種の異なる様々な群落に移り変わっていく現象

事例① 新名古屋火力発電所



施工後



施工後約1年



施工後約11年

事例② 碧南火力発電所 施工状況



土壌改良状況



ポット苗植付状況



ワラマルチング敷設状況

5 ロープクライミングによる樹上特殊伐採

「樹上特殊伐採」をご存知ですか？

大きな木の伐採・剪定には一般的に高所作業車や仮設設備が必要ですが、場所によってはそれらを設置することが困難な場合もあります。



そんな場所で大きな樹を管理することのできる“救世主”が「樹上特殊伐採」です。この方法は、ロープクライミング技術を使用し、「安全・迅速・効率的」に大樹の管理を実現。欧米では、一般的に「アーボリカルチャー（Arboriculture）」として知られています。



例えば、

「ご先祖さまが植えた庭木が、大きくなりすぎて、枝葉が隣の家にまで・・・」

「倒れそうな樹木があるけど、家屋が隣接していて切り倒すスペースが確保できない・・・」

など、こんなことでお困りの方は、まずはお気軽にお問合せください。